

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57	(回答者数) 47
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	『満足度』の項目で、特に「こどもの安心感」と「事業所の支援」について、保護者からの高評価を得ている。今後も子ども一人一人に向き合い、その時々状況に応じて変わる気持ちを理解し、丁寧を受け止めていくようにする。	子ども達それぞれの課題を理解し、職員が共通理解のもとで支援に入ることが出来るよう、こまめな連絡や打ち合わせにより情報共有をしている。事業所の支援については、週替わりの活動と祝日や長期休暇の時間を生かした活動で児童・生徒の興味や関心が広がるような取り組みを取り入れている。	在籍児の年齢層が高めなので、進学や将来の仕事を意識するきっかけになるような取り組みを計画していく。また将来について考える上で自分への理解を深め、得意や好きを伸ばしていけるようにする。
2	『適切な支援の提供』の項目では、「サービス計画に沿った支援」について評価を頂いた。また「活動プログラムの工夫」についても、外出や製作や季節行事などの体験活動について良いご意見を多く頂いた。	個別支援計画の為に面談を丁寧に行い、利用児の実際の姿と保護者のご希望をお聞きし、具体的にどのような形で支援するかを相談しながら決めている。また、利用児本人からの希望を受けて支援内容に活かしている。	「活動プログラムの工夫」については、固定化されている方が安心できる子もいるとのご意見を頂いている。特性から“いつもの”が安心する子もいるの思われるので、状況に応じて個別に対応していくようにする。
3	『保護者への説明』の項目では、「支援内容の説明」と「個人情報取扱い」「子育てに関する助言」について評価を得ている。	面談時や送り迎えの際に、活動の様子を丁寧にお伝えしている。ご家庭では見せない子どもの姿についてもお話させて頂くことで、子どもへの理解を深めることが出来るよう意識している。	利用児の年齢層が高い為、自力通室している子どもたちも多い。保護者とお話させて頂く機会が面談のほか、連絡のお電話になることが多いので、より一層細やかな説明が出来るようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	『適切な支援の提供』の中で「放課後児童クラブや児童館との交流、地域の子どもと活動する機会」についてが課題だと思われる。	遠くから来室する生徒もいる為、来室時間が遅く全員そろって下校後の時間を合わせて児童館などへ外出することが難しい。思春期という事もあり、放課後デイサービスとしての活動で地域の児童と関わることに抵抗を感じる子がいるかもしれない。	地域の子どもと活動する機会については、学校休業日に地域祭りやイベントなどへ外出できないか検討していく。
2	『保護者への説明』の項目で「保護者会の開催や保護者同士の交流の機会」についてが課題だと思われる。	保護者の中には参加が難しかったり、負担感を感じられる場合もあるので、開催について慎重にならざるを得ない。	受験を控えた保護者からは情報を求める声が出ることもある。受験を終えた保護者から、次の学年の保護者へ体験談などをお話して頂くような機会があっても良いかと思うが、双方の合意が必要なため、実施については工夫が必要。
3			